

# 旭川市における 公共交通をとりまく現状と課題の整理

## <計画概要>

p.1~

### 1 地域の現状からみた課題

p.2~

### 2 公共交通の現状からみた課題

p.9~

### 3 市民アンケート調査等の結果と課題

p.14~

### 4 課題の整理・まとめ

p.18

# <計画概要>

## ○計画策定の背景

- 公共交通利用者の減少  
→減少の歯止め必要
- 人口減少・高齢化  
→負のスパイラルの懸念
- これからのまちづくり  
→都市のコンパクトシティ  
+ネットワーク化が必要

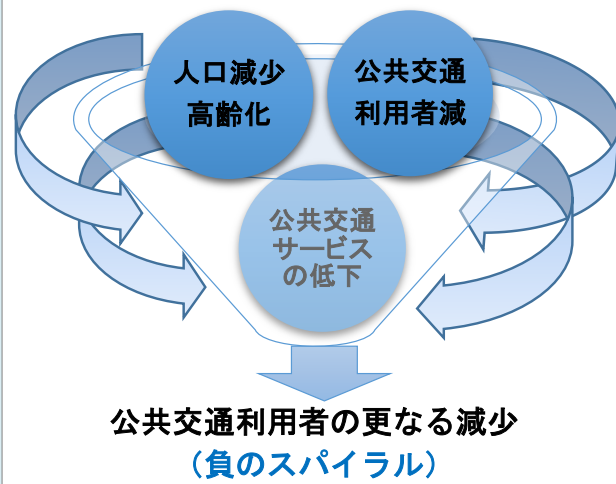
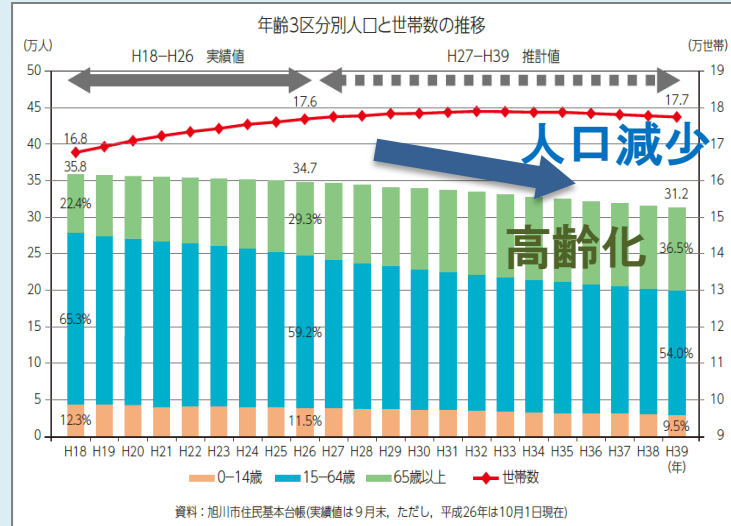


図 人口減少、高齢化と公共交通の利用者の減少(負のスパイラル)のイメージ

## ○計画策定の目的

- ・人口減少、少子高齢化が進む社会状況においても、市民の生活や地域の発展に欠かせない公共交通網を維持、確保するため、持続可能な公共交通体制の構築と利用促進につながる事業実施に向け、短期的、長期的視点に基づく「旭川市地域公共交通網形成計画」を策定します。

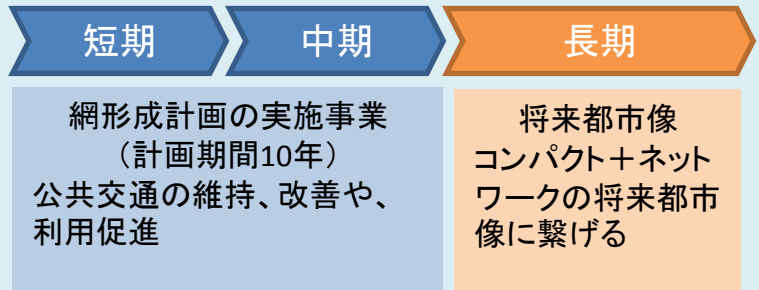
### 【計画の視点】

#### ●短中期的視点 (計画対象期間内・10年程度)

:現状の市内公共交通を維持しつつ、効率性や利便性に課題のある部分を改善することで利用促進に繋げる短期の取組み。

#### ●長期的視点 (計画対象期間以降・10~20年) :

:都市計画マスタープランや立地適正化計画で示す将来都市像(コンパクト+ネットワーク)に向けた公共交通体系を構築する。将来の都市構造の変化に対応しながらネットワークを図る。

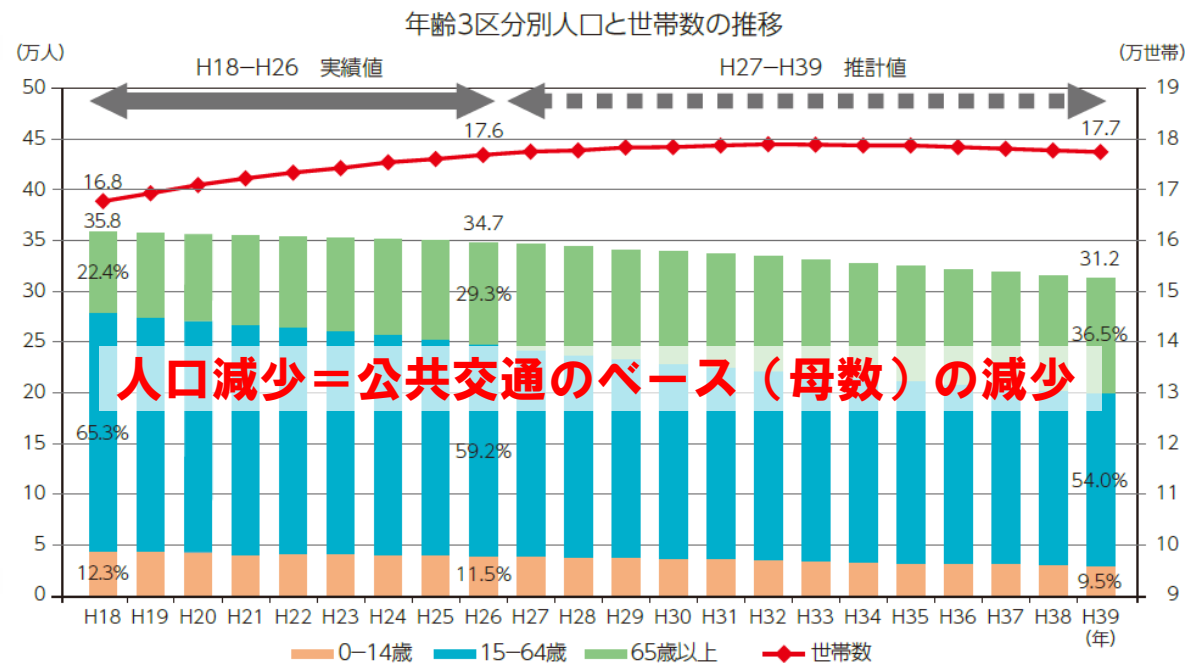


# 1 地域の現状からみた課題

## 1-1 少子高齢化、人口の減少 (→公共交通利用のベース(全体数)の減少と高齢者増加への対応が必要)

**現状:** 旭川市は平成12年以降人口減少傾向にある。平成29年6月時点で341,088人であるが、少子高齢化、人口減少の傾向が続いており、今後もその傾向が続くと予測される。

**課題:** 人口減少による公共交通利用者のベースとなる数の減少の懸念と、高齢者人口の増加への対応が必要となる。



### 【ポイント】

平成29年(現在) ※市HP

人口 341,335人

高齢化率 31.9% (108,848人)

平成34年

(計画策定後の5年目想定)

人口 約33万人

高齢化率 約36% (約12万人)

人口が3%減少

高齢者が5%増加の予測

→公共交通利用のベースが減少  
(全体数の減少)への対応

# 1 地域の現状からみた課題

## 1-2 観光需要の変化 (→公共交通利用のベースとなる観光需要の変化 [インバウンド増、月変動]への対応が必要)

**現状:** 旭川市の観光入込客数は平成28年度年間531万人(1.5万人/日)である。外国人の宿泊延数は同年で年間18.8万人(500人/日)である。年毎に変動はあるが、年間の入込数は530万人前後で推移、外国人インバウンドは増加傾向にある。

観光客の交通手段はレンタカーに次いでバスの利用が多い。

**課題:** 観光客数の維持、増加のためには市内周遊や観光施設アクセスのための公共交通の利便性の維持・強化が求められる。また交通手段を持たない外国人観光客への交通確保が求められる。

9 旭川市内、道内での交通手段は？(複数回答)

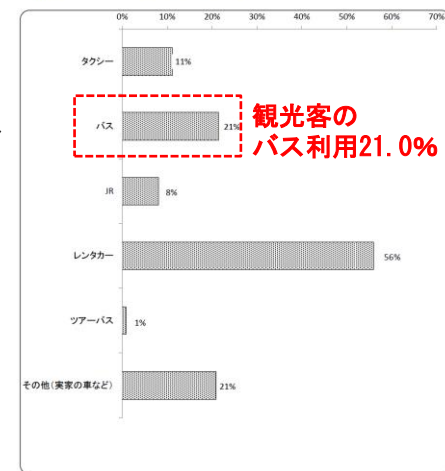


図 旭川市内、道内での交通手段 (平成28年観光アンケート調査 あさひかわ商工会)

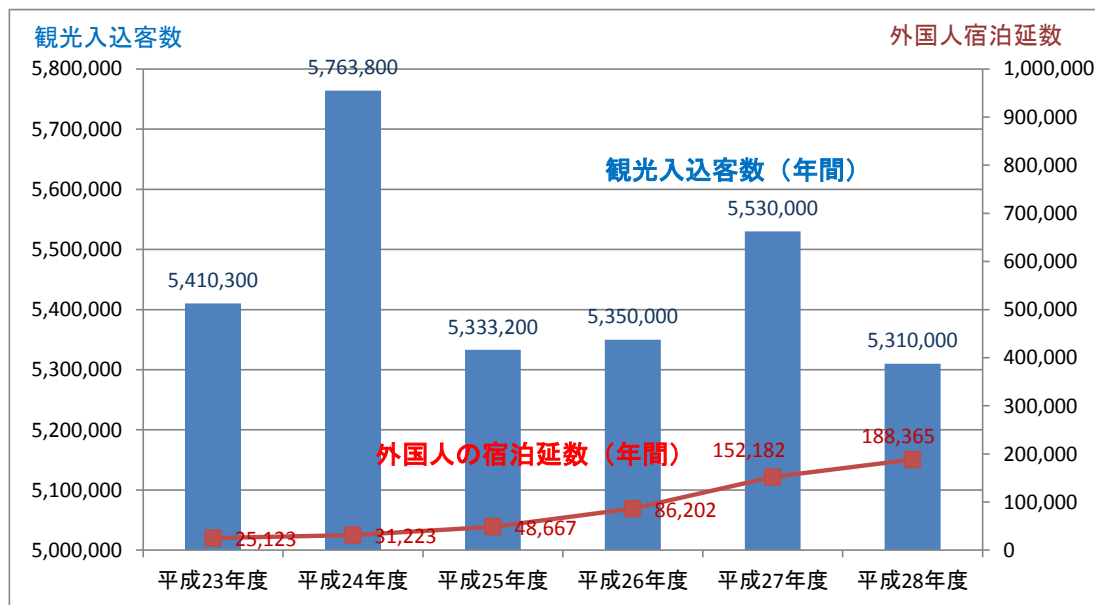


図 旭川市の観光入込客数と外国人宿泊延べ数の推移 (経済観光部観光課の報告書)

### 【ポイント】

平成28年度の観光需要

観光客数 1日1.5万人

外国人 1日 500人

→観光客数の維持、増加の視点から公共交通サービス確保が必要

→交通手段を持たない観光客への交通サービスの提供が必要

## <前頁のつづき>

**現状:** 観光入込客数は7月～9月が多く、中でも7月がピークとなる。観光客数は過去5年間をみると減少傾向となっている中、外国人宿泊客は増加傾向にある。

**課題:** 月変動する観光需要への対応が必要である。また増加する外国人観光客への対応が必要である。

### 【ポイント】

→観光の季節変動への対応

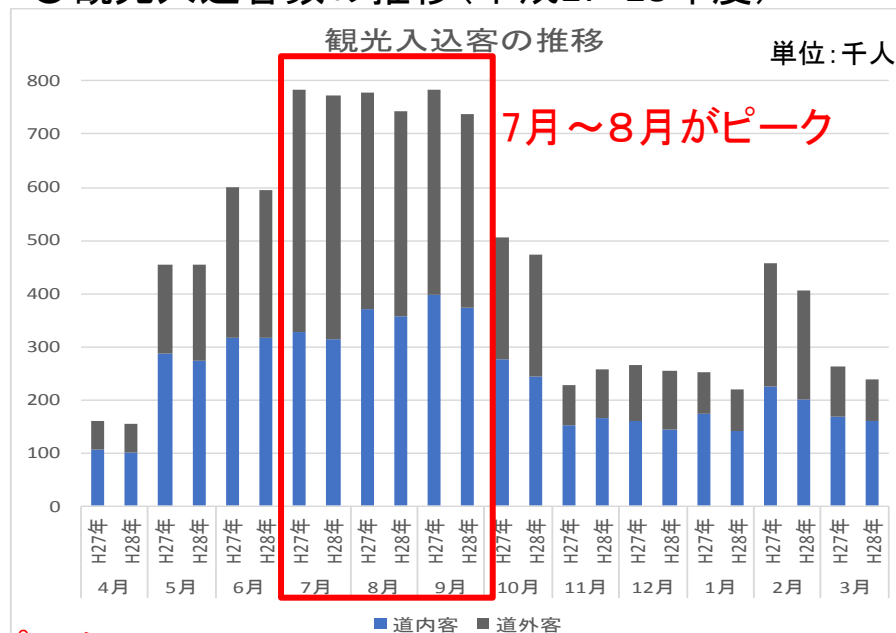
→インバウンド需要への対応

### ○外国人宿泊延べ数の推移(平成27・28年度)

外国人宿泊延べ数(単位:泊)

地域	平成27年	平成28年	対前年比
中国	63,506	74,190	116.8%
台湾	26,775	23,437	87.5%
タイ	12,318	22,787	185.0%
香港	15,171	19,697	129.8%
韓国	6,407	12,153	189.7%

### ○観光入込客数の推移(平成27・28年度)



### ○観光入込客数の推移(H28年度)

7月～8月がピーク

単位:千人

項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期計	合計	対前年度比
合計	今年度	154.6	454.5	595.7	773.6	743.9	738.1	3460.4	472.5	256.8	255.0	219.8	406.3	239.2	1849.6	5310.0	96.0%
	前年度同期	159.5	455.7	600.4	783.6	778.5	783.3	3561.0	505.6	226.6	265.3	251.0	456.7	263.8	1969.0	5530.0	
道内客	今年度	100.3	272.3	317.5	314.8	356.3	373.5	1734.7	243.4	165.6	143.8	142.6	201.5	159.0	1055.9	2790.6	94.2%
	前年度同期	107.0	287.5	316.4	328.4	370.6	398.7	1808.6	275.2	150.9	160.4	172.6	224.0	169.5	1152.6	2961.2	
道外客	今年度	54.3	182.2	278.2	458.8	387.6	364.6	1725.7	229.1	91.2	111.2	77.2	204.8	80.2	793.7	2519.4	98.1%
	前年度同期	52.5	168.2	284.0	455.2	407.9	384.6	1752.4	230.4	75.7	104.9	78.4	232.7	94.3	816.4	2568.8	
日帰り・通 過客	今年度	129.1	406.3	538.1	684.3	656.2	679.6	3093.6	426.8	230.2	222.0	183.7	362.9	208.2	1633.8	4727.4	96.0%
	前年度同期	136.1	407.4	544.5	692.5	688.3	717.6	3186.4	453.6	199.5	233.9	213.4	406.8	231.9	1739.2	4925.6	
宿泊客実 数	今年度	25.5	48.2	57.6	89.3	87.7	58.5	366.8	45.7	26.6	33.0	36.1	43.4	31.0	215.8	582.6	96.4%
	前年度同期	23.4	48.3	55.9	91.1	90.2	65.7	374.6	52.0	27.1	31.4	37.6	49.9	31.9	229.8	604.4	
宿泊延べ 数	今年度	34.7	67.1	80.1	132.1	126.2	81.8	522.0	71.4	39.6	49.8	55.3	71.2	47.8	335.1	857.1	106.2%
	前年度同期	30.8	65.2	76.6	123.9	129.9	89.3	515.7	63.8	33.6	39.2	48.6	65.8	40.5	291.5	807.2	

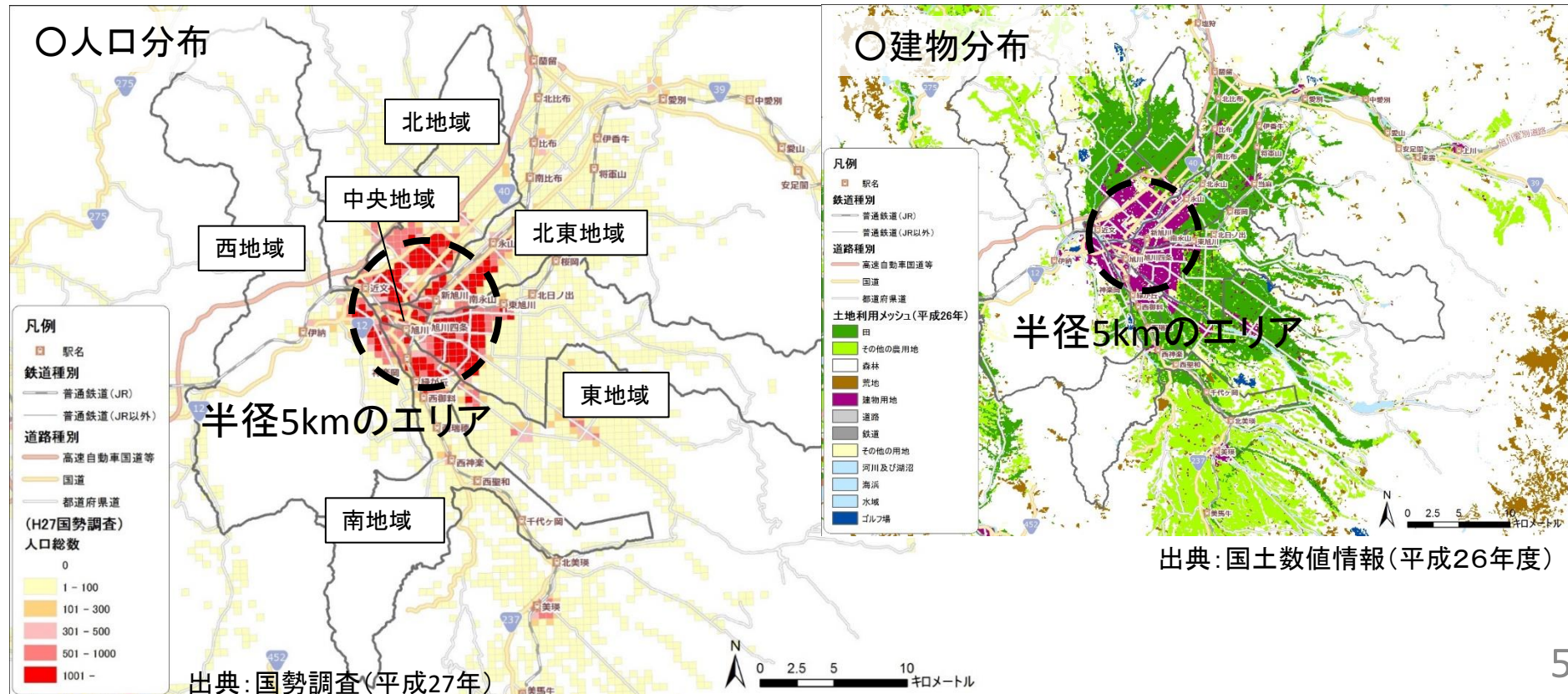
(出典: 経済観光部観光課の報告書)

# 1 地域の現状からみた課題

## 1-3 人口等の分布状況(→人口等の集積の濃淡にあわせた公共交通網形成が必要)

**現状:** 市中心部(半径5Km)は建物用地、人口が集中している状況である。一方、外側の地域は人口が広く分散している。

**課題:** 公共交通の効率化のためには、人口や施設が集積する中心部と、5km圏域外側の人口密度が薄く広がる地域の違いを踏まえた公共交通手段やサービス水準のメリハリが必要である。



# 1 地域の現状からみた課題

## 1-4 市民の移動実態

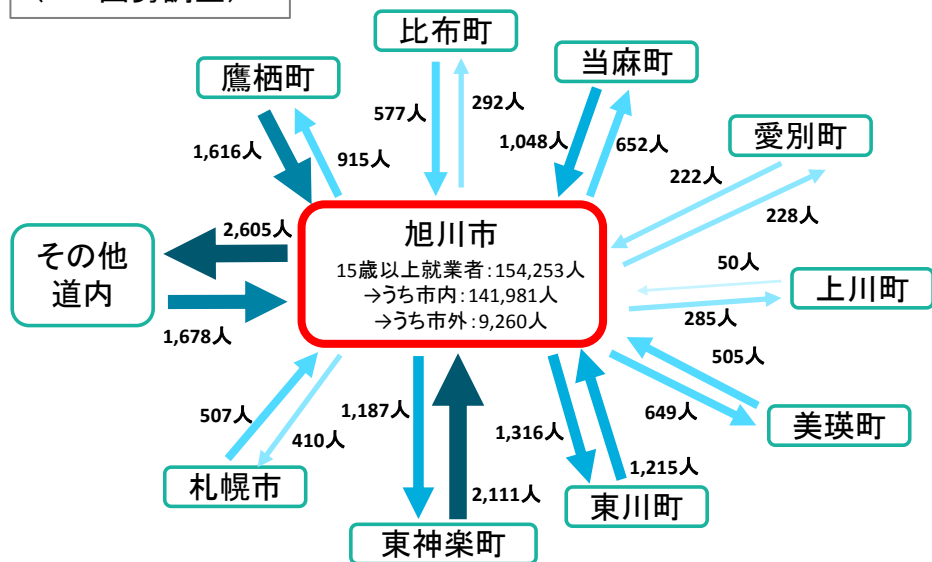
(→広域移動および市内移動を確保する公共交通網の維持, 改善が必要)

### ○広域移動の実態

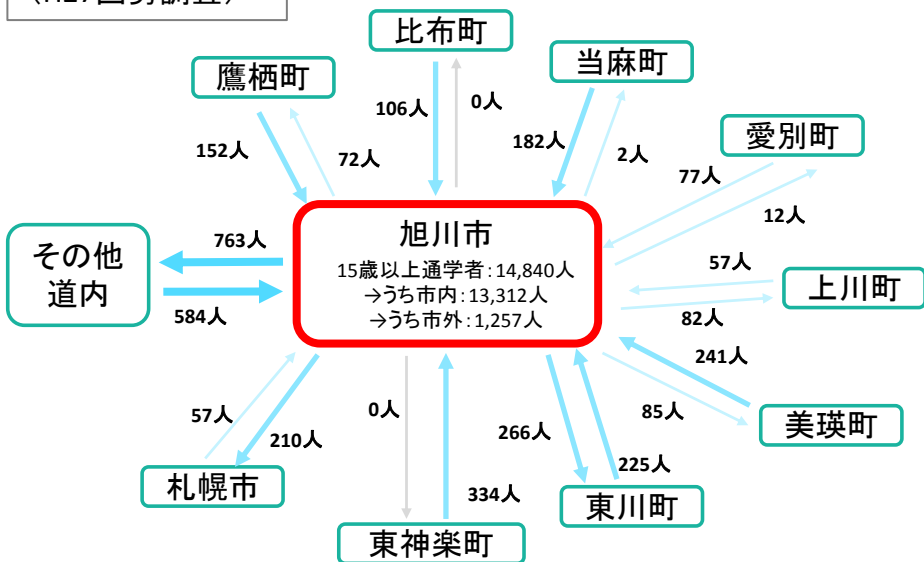
**現状:** 通勤・通学(国勢調査)の多くは旭川市内の移動であるが、鷹栖町、東神楽町、東川町などの広域移動もみられる。

**課題:** 市内の各地域内の移動の他、市外の広域移動の確保も求められる。

通勤の流動  
(H27国勢調査)



通学の流動  
(H27国勢調査)



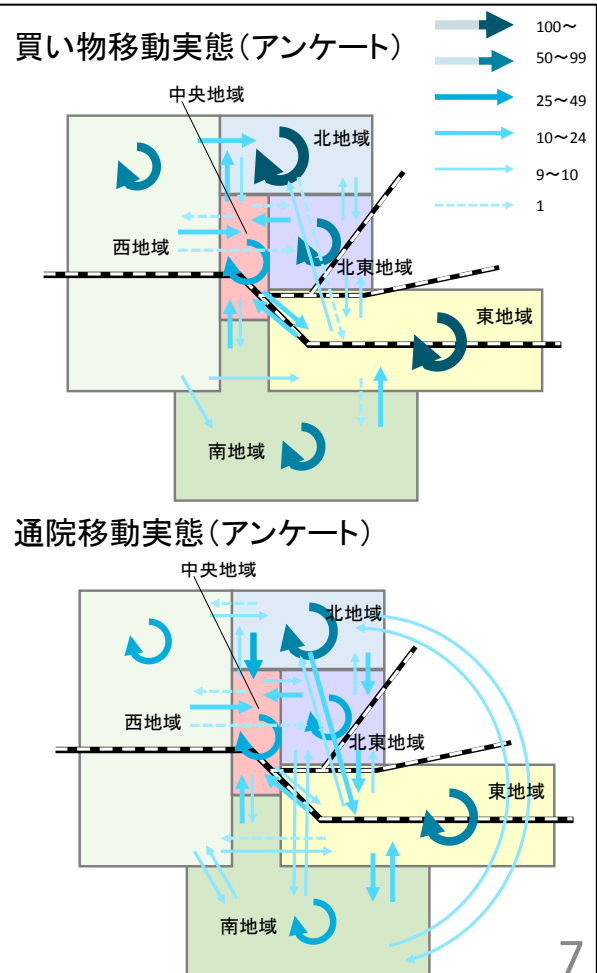
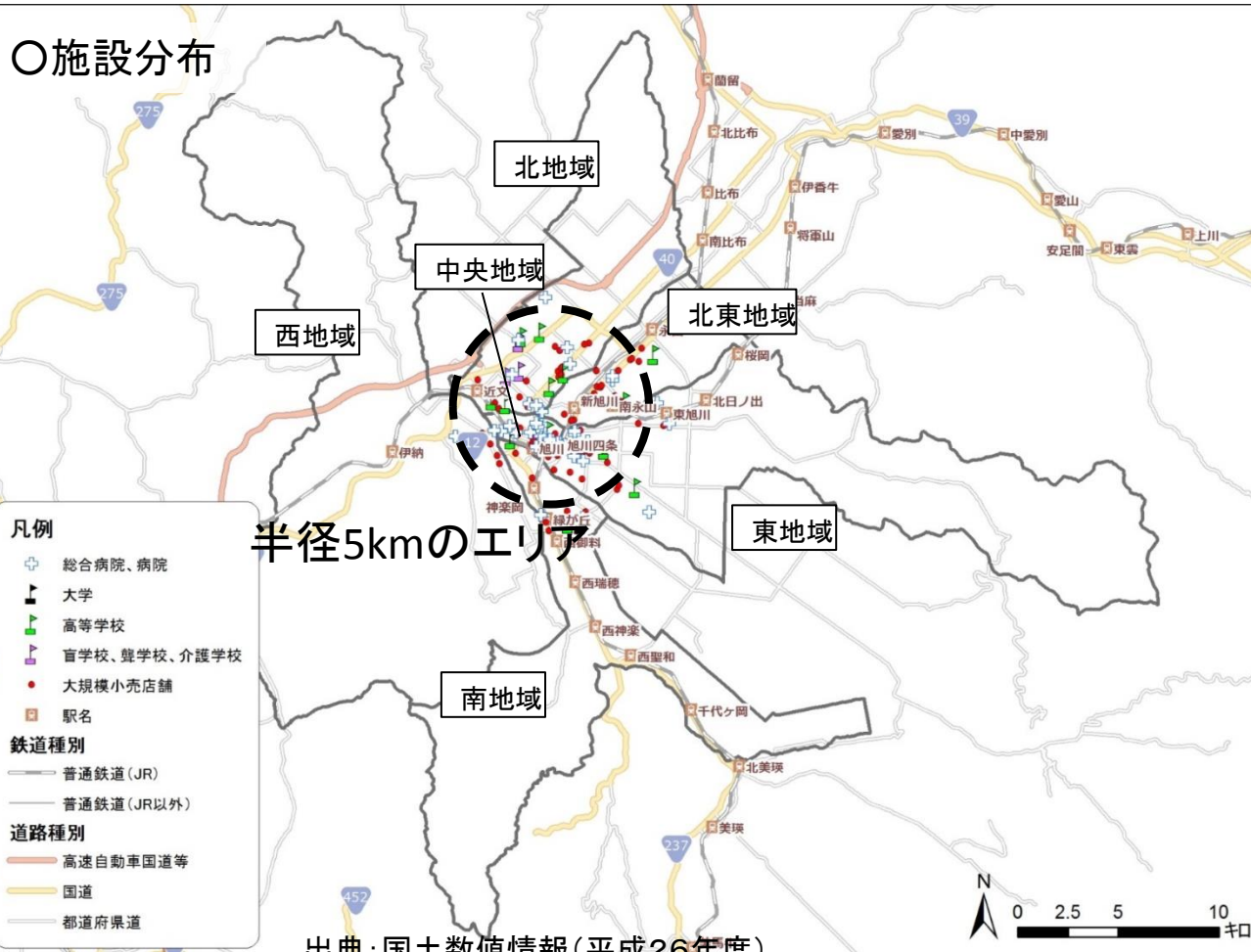
# 1-4 市民の移動実態

(→広域移動および市内移動を確保する公共交通網の維持、改善が必要)

## ○市内の移動(地域内、地域間移動)の実態

**現状:** 各地域の市中心部寄り半径5Kmの地域に市民の利用施設が集積している。買い物や通院の施設は各地域内の移動が多いが、地域間をまたがる移動も見られる。

**課題:** 目的施設への移動を確保する公共交通網の維持、改善が必要である。





# 1 地域の現状からみた課題

## 1-5 都市計画マスタープラン、立地適正化計画(現在策定中)

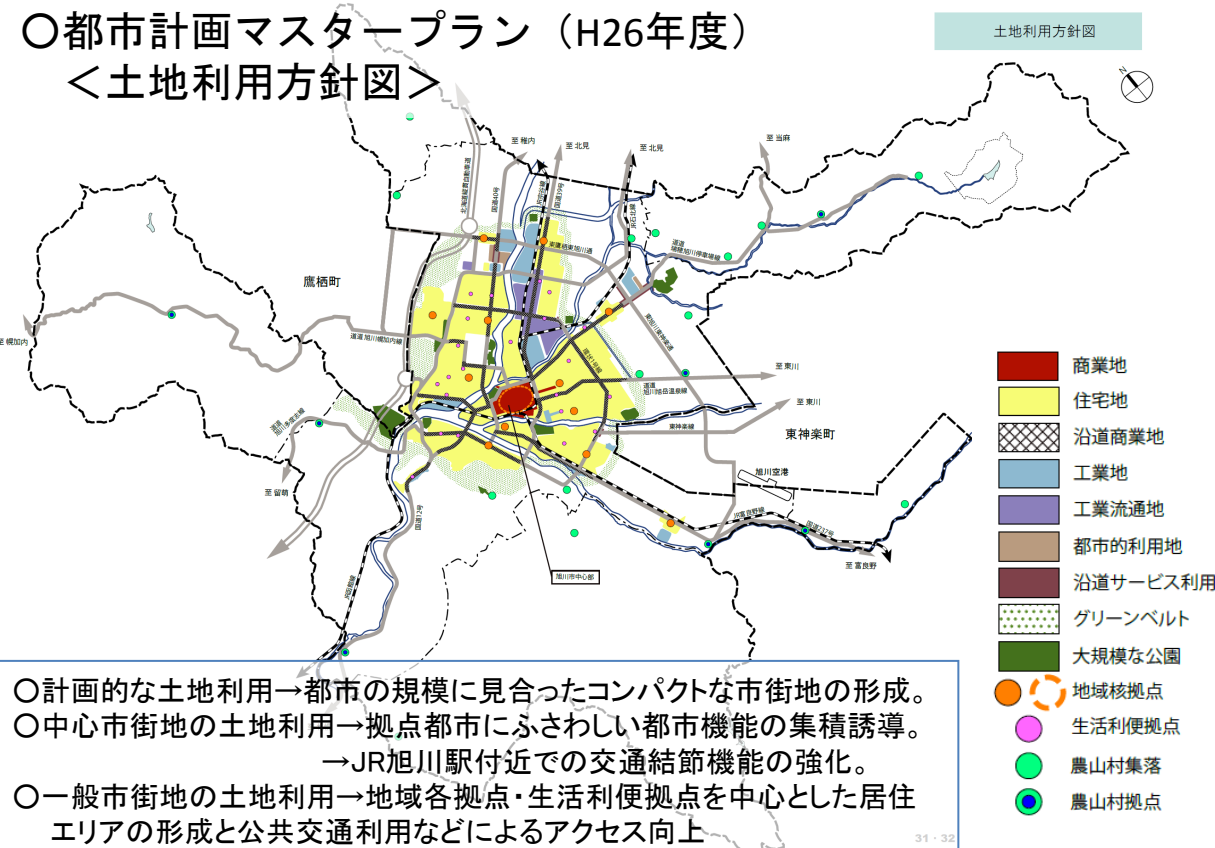
(→拠点形成、コンパクトな市街地形成などの将来都市像への対応)

**現状:** 都市計画マスタープランや現在策定中の立地適正化計画においては、コンパクトな都市づくりを目指すことが位置付けられており、地域の各拠点の形成も重要となる。

**課題:** 都市構造の変化(コンパクト化)は長期にわたって達成されていくものとなることから、長期的な視点(10~20年後)としてとらえることが必要である。

### ○都市計画マスタープラン (H26年度)

<土地利用方針図>



### 【ポイント】

旭川市の都市のコンパクト化を目指す(長期的)

都市計画マスタープランの期間  
平成28~48年度(概ね20年後)

立地適正化計画の期間  
平成30年度~(概ね20年後)

→長期的なコンパクト化の視点と短期的(5年程度)対応の視点の整理が必要

# 2 公共交通の現状からみた課題

## 2-1 公共交通利用者数の減少

(→利用減少に対する公共交通の利用促進、維持方策が必要)

**現状:** 旭川市の公共交通は、鉄道、路線バス、デマンド交通、タクシーで構成されている。旭川電気軌道70系統、道北バス74系統が運行しているが、利用者数は、10年前に比べ25%減少、昭和40年代のピーク時から75%減少し、長期的に減少している。

**課題:** 利用の減少傾向が続く中、地域の足を維持していくために、必要な路線の確保・維持・改善の検討や利用促進の取り組みが必要である。

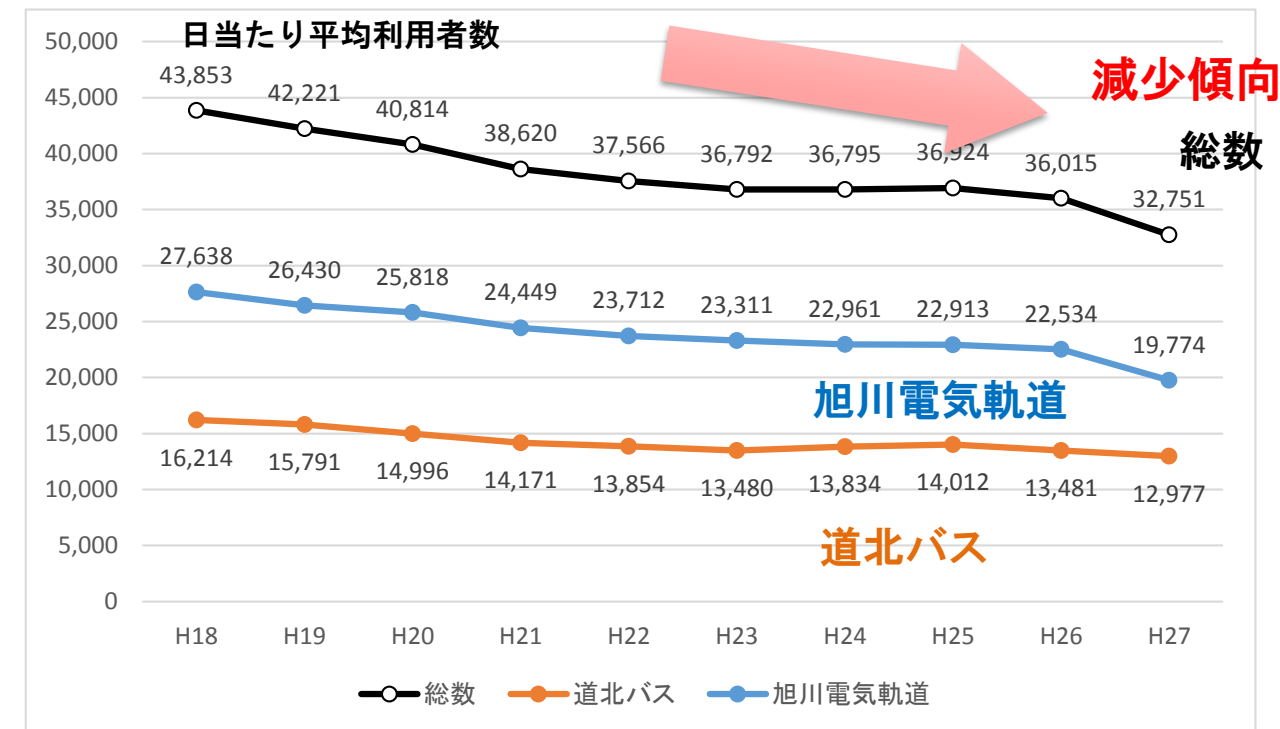


図 路線バスの利用者数の推移

平成18年度  
路線バス利用者数  
1日43,853人

↓

路線バス利用者数  
1日32,751人

→平成27年は平成18年に比べ25%減少している

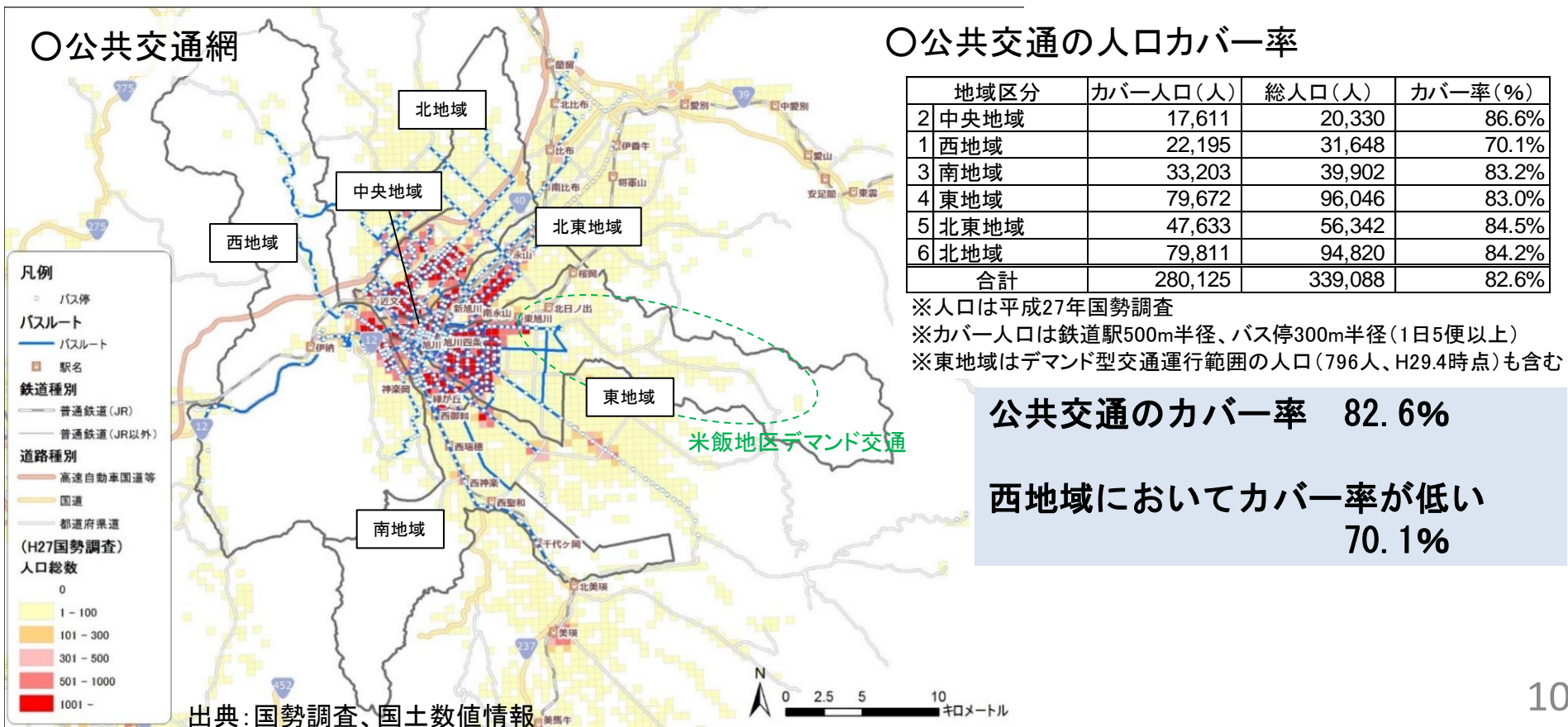
# 2 公共交通の現状からみた課題

## 2-2 市内の公共交通による人口カバー状況

(→公共交通の不便な地域での移動手段の確保が必要)

**現状:** 旭川市のバス路線は、旭川駅および国道40号、39号を中心に市内を各方面に運行されている。面的に広がる路線により公共交通の人口カバー率は83%である。

**課題:** 郊外部において公共交通によるカバーがされていない地域が存在するため、これらの地域における移動手段確保が必要である。



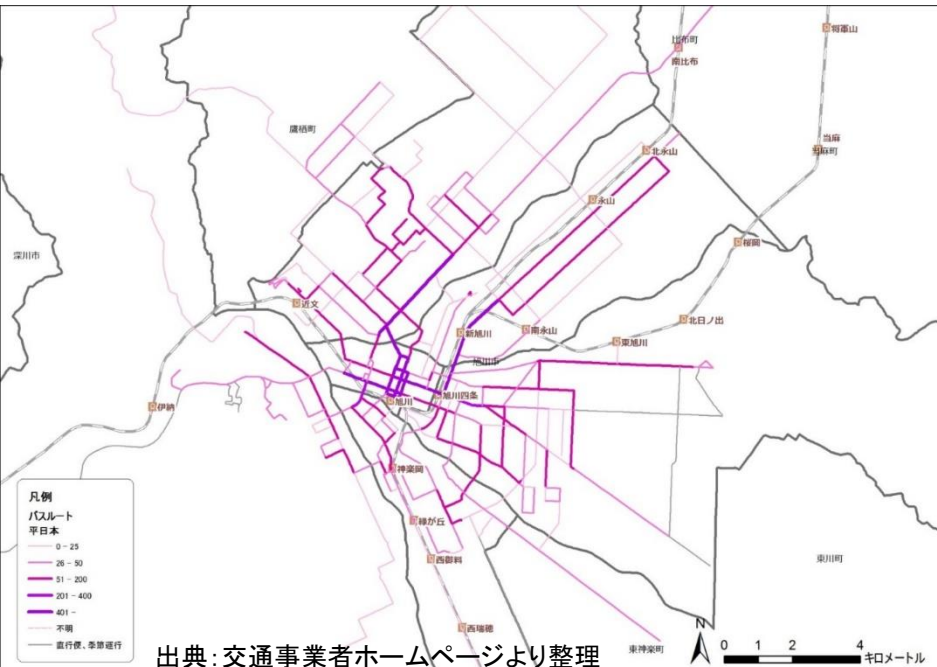
# 2 公共交通の現状からみた課題

## 2-3 運行本数、利用実態からみた幹線的な路線の存在 (→路線の役割分担とネットワーク化が必要)

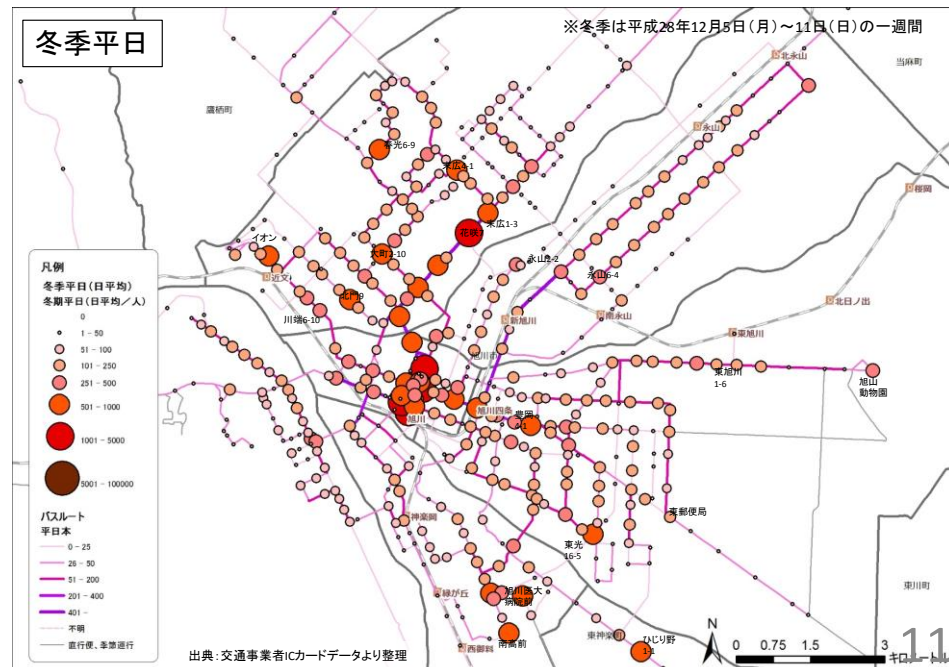
**現状:** 旭川駅から花咲や神居、東光、永山に向かう各方面で運行本数の多いバス路線があり、幹線的な状況となっている。また、旭川駅周辺の中心部や、花咲、東光、イオン西、旭川医大など乗降の多い地区が存在している。

**課題:** 利用形態などを踏まえた路線の役割分担や、幹線的な路線を中心とした多方面のネットワークの強化により、効率性と利便性による公共交通網を形成することが将来的に求められる。

○路線バスの運行本数(平日)



○路線バスの停留所別乗降人数

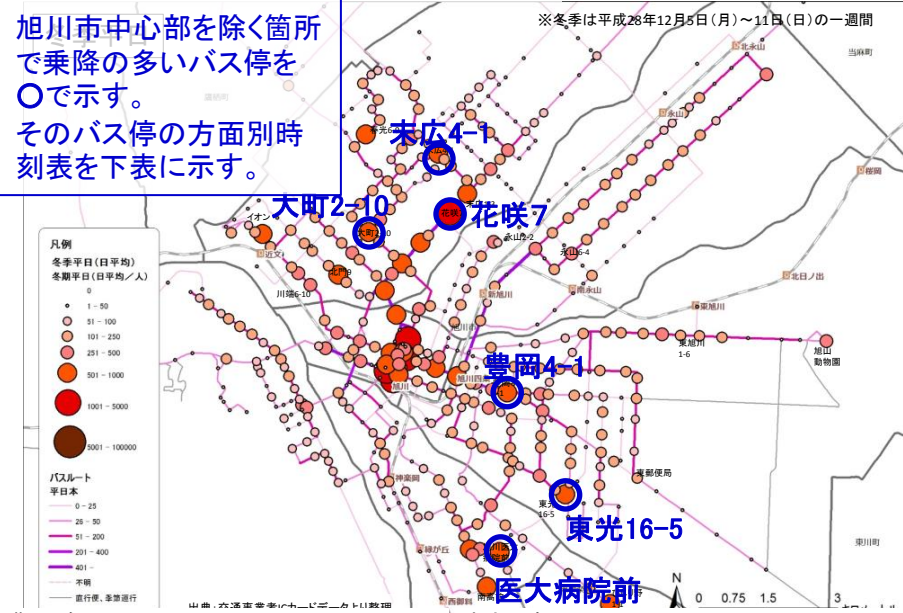


**現状:**乗降の多いバス停(右図)においては  
下表のように多方面の路線が多頻度  
で運行している状況にある。

**課題:**多方面の路線が運行するバス停の利  
便性を活用し案内していくことで、利用  
者の多様な行き先ニーズへの対応が  
可能となるため、結節点としての待合  
環境や案内環境の充実が求められる。

**○路線バスの停留所別乗降人数**

旭川市中心部を除く箇所  
で乗降の多いバス停を  
○で示す。  
そのバス停の方面別時  
刻表を下表に示す。



花咲7丁目

方面(行先)	平日	土曜	休日
旭川駅	147	140	140
旭川駅/ 神楽岡15条4丁目	31	29	29
旭川医大病院前	11	11	11
末広6条11丁目/ 旭川駅	26	26	26
末広4条1丁目	31	29	29
末広1条3丁目/ 末広6条11丁目	31	32	31
13線16号/ 10線22号	12	12	12
旭川農業高校	3	0	0
春光台4条5丁目/ 福祉村	28	28	28
比布	3	3	3
名寄駅前	12	12	12
10線10号	4	4	4
10線22号	2	2	2
男山公園前/ 愛別駅前	7	7	7
春光6条4丁目	2	0	0
末広6条11丁目	1	0	0
当麻ヘルシーシャトー 1条7丁目	7	6	6
末広4条1丁目	2	2	2
合計	361	344	343
1時間当たり (15時間運行と仮定)	24	23	23

末広4条1丁目

方面(行先)	平日	土曜	休日
旭川駅	80	76	76
旭川医大病院前	11	11	11
末広4条1丁目	22	20	20
春光台4条5丁目/福祉村 1条8丁目	28	28	28
6	6	6	6
10線10号	4	4	4
10線22号	2	2	2
旭川農業高校	1	0	0
合計	154	147	147
1時間当たり (15時間運行と仮定)	10	10	10

大町2条10丁目

方面(行先)	平日	土曜	休日
旭川駅	85	81	81
旭川医大	11	11	11
末広4条1丁目	21	21	21
春光台4条5丁目	34	33	32
春光6条4丁目	2	0	0
春光4条8丁目	20	17	17
春光6条9丁目	27	27	27
1条8丁目	21	18	18
10線10号	13	12	12
江丹別	3	3	3
旭川農業高校	2	0	0
合計	239	223	222
1時間当たり (15時間運行と仮定)	16	15	15

豊岡4条1丁目

方面(行先)	平日	土曜	休日
旭川駅	32	30	30
旭川駅/春光6条9丁目	22	22	22
曙1条5丁目	30	30	30
東光16条5丁目	31	31	31
東光18条5丁目	18	18	18
1条7丁目	22	20	20
豊岡13条6丁目	1	0	0
神居2条1丁目	1	0	0
旭山動物園	16	16	16
東川東町4丁目	17	15	15
旭川赤十字病院前/ 大雪クリスタルホール前	18	17	17
東郵便局前	17	16	16
東光20条8丁目	24	24	24
合計	249	239	239
1時間当たり (15時間運行と仮定)	17	16	16

東光16条5丁目

方面(行先)	平日	土曜	休日
旭川駅	11	11	11
東旭川駅前	3	0	0
緑が丘駅前	3	0	0
旭川空港	7	7	7
曙1条5丁目	61	61	61
東光18条5丁目	18	18	18
1条7丁目	22	20	20
近文25丁目	13	13	13
旭岳	4	4	4
合計	142	134	134
1時間当たり (15時間運行と仮定)	9	9	9

旭川医大病院前

方面(行先)	平日	土曜	休日
旭川駅	37	37	37
旭川医大前	52	52	52
神楽岡駅前/護国神社前	12	12	12
末広4条1丁目	12	12	12
新富良野プリンスホテル	8	8	8
合計	121	121	121
1時間当たり (15時間運行と仮定)	8	8	8

## 2 公共交通の現状からみた課題

### 2-4 バス会社の環境の変化(運転者の不足、高齢化)

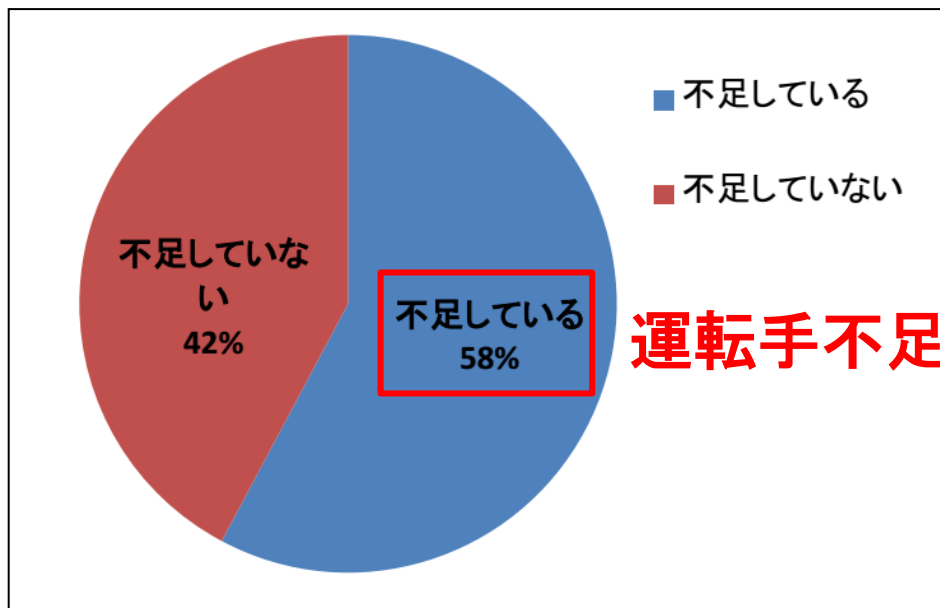
(→運転手不足と高齢化への対応が必要)

**現状:** 北海道運輸局管内のバス事業者では、運転手不足や運転手の高齢化が進んでいる。

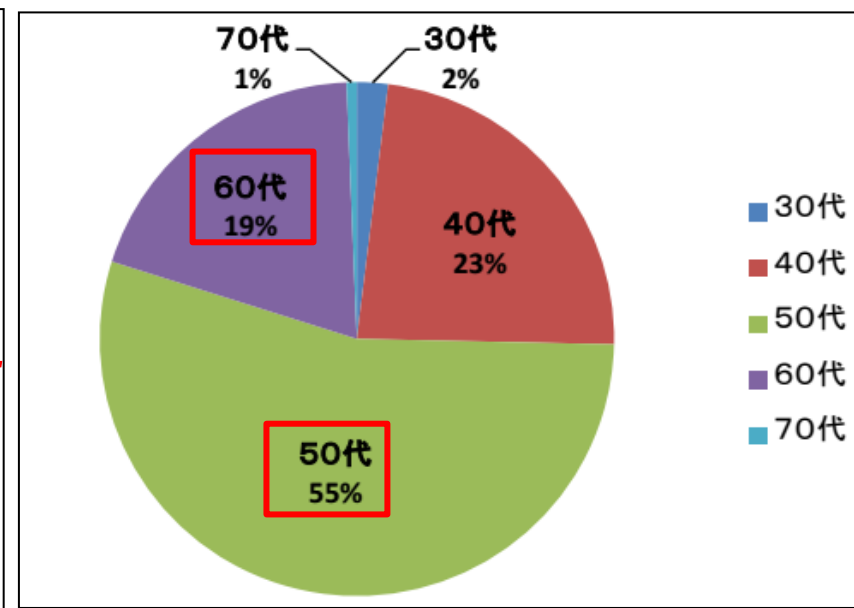
**課題:** 運転手不足等により公共交通の維持が難しくなる状況に対応するため、運転手不足解消策や路線の効率化(効率的なネットワーク化)が必要である。

#### 北海道運輸局におけるバス事業者へのアンケート調査

運転者不足の有無  
(乗合・貸切・特定)



運転者の平均年齢  
(乗合・貸切・特定)



# 3 移動実態、ニーズ等からみた課題

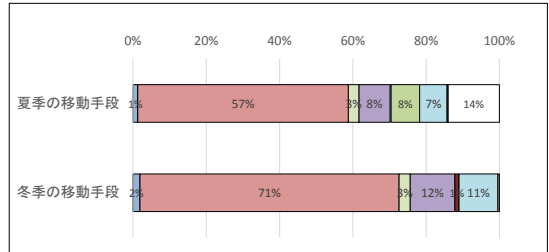
## 3-1 市民の移動実態(→生活利用のための路線の維持、確保が必要)

**現状:** 通勤、買い物、通院ともに自動車の利用が最も多いが、路線バスの利用も一定数見られる。買い物や通院の行き先は、居住地域内での移動が多いが、通院は中央地域、東地域に集中する傾向がある。また、通学の移動手段として夏季は自転車が多いが、冬季は鉄道、路線バスが増える傾向がある。

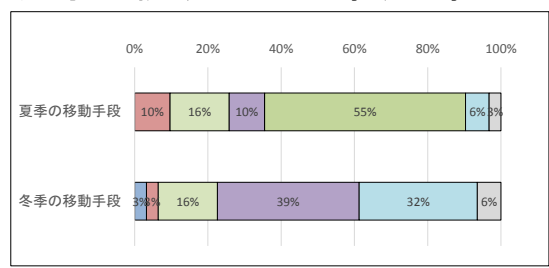
**課題:** 各移動目的で路線バスの利用が一定数見られ、市民の生活の移動確保のため、公共交通の維持、確保が必要である。



■ 通勤の移動手段(夏季、冬季)

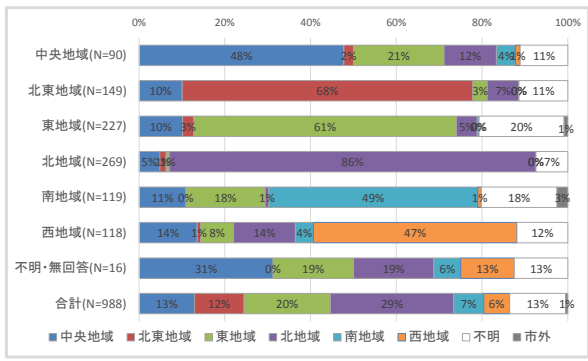


■ 通学の移動手段(夏季、冬季)

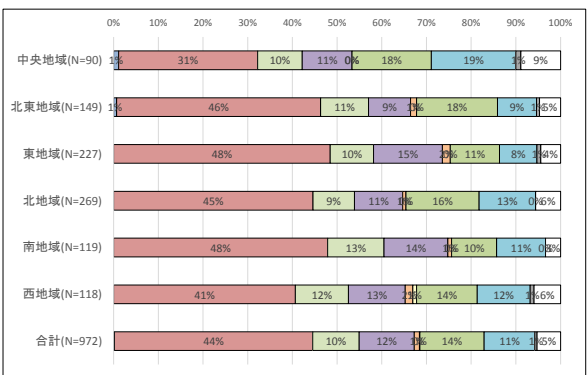


① 鉄道	⑦ 原付・バイク
② 自動車(自分で運転)	⑧ 自転車
③ 自動車(送迎)	⑨ 徒歩
④ 路線バス	⑩ その他
⑤ 予約乗合タクシー	⑪ 無回答
⑥ タクシー	

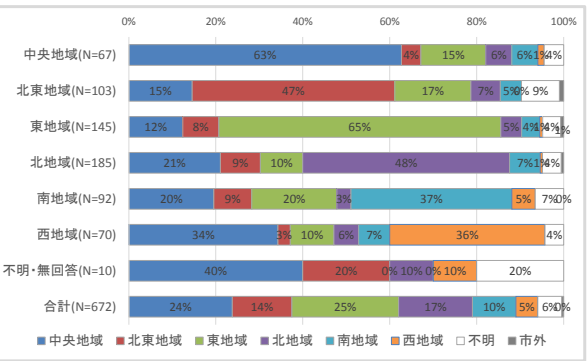
■ 買い物の移動先



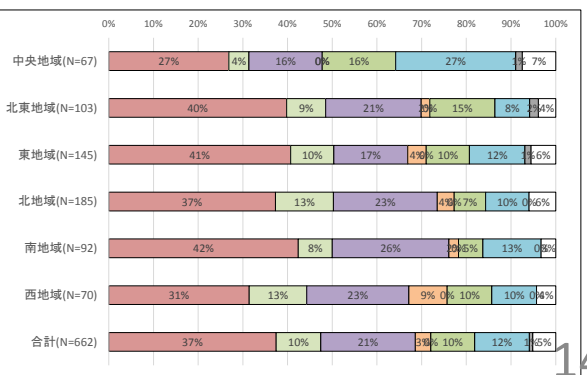
■ 買い物の移動手段



■ 通院の移動先



■ 通院の移動手段

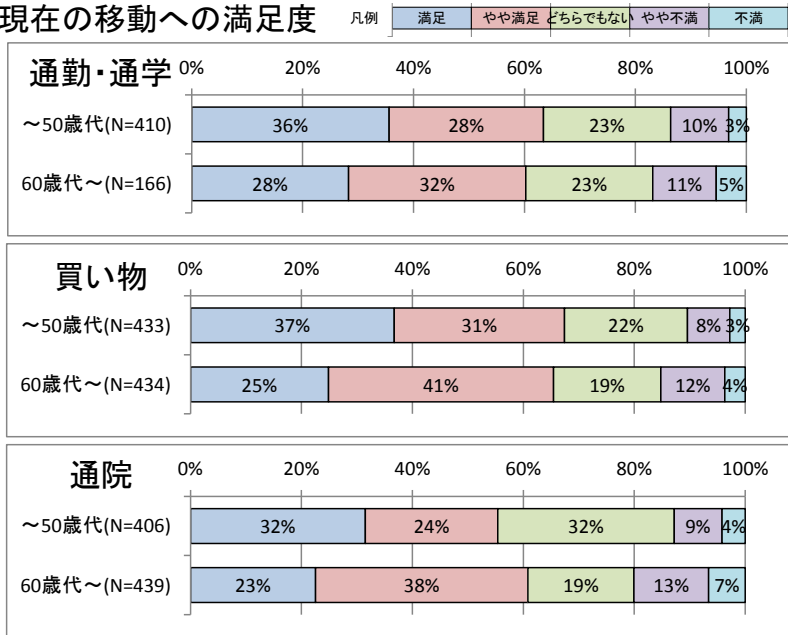


# 3 移動実態、ニーズ等からみた課題

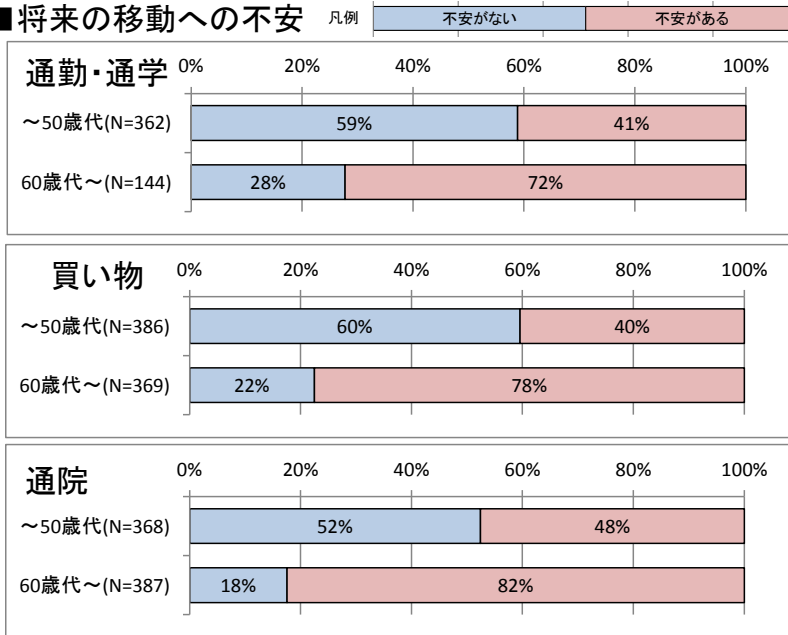
## 3-2 市民の利用意識 (→高齢化の中での移動手段の確保が必要)

**現状:** 現在の移動に対する満足度は高いが、60歳代以上は買い物や通院の将来の移動への不安が高い。  
**課題:** 将来の移動の不安は高齢者において高くなっており、将来の移動手段として公共交通が必要とされている。

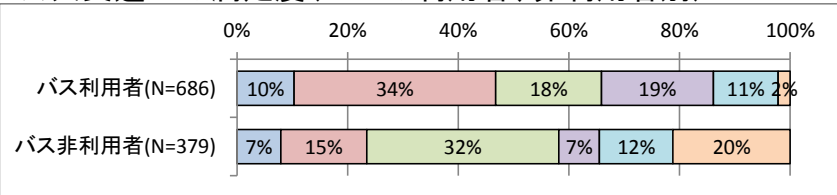
■現在の移動への満足度



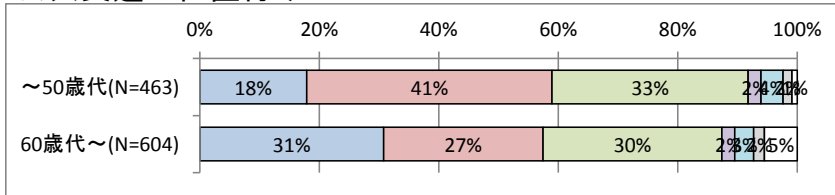
■将来の移動への不安



■公共交通への満足度(バスの利用者、非利用者別)



■公共交通の位置付け



出典: 平成29年度旭川市公共交通に関するアンケート調査



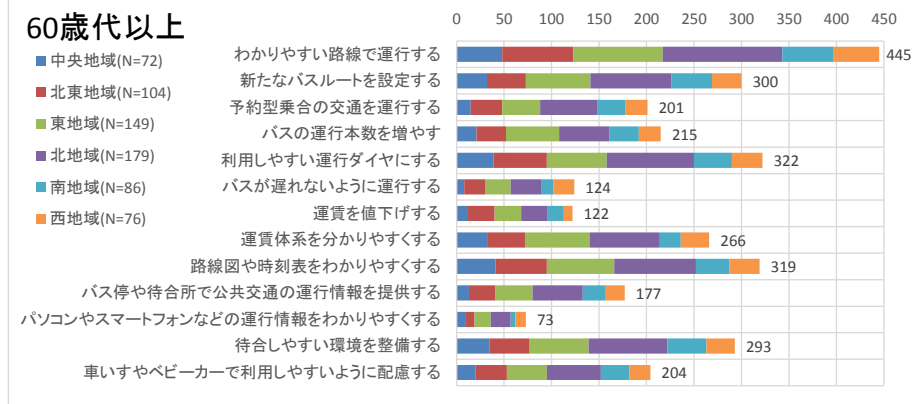
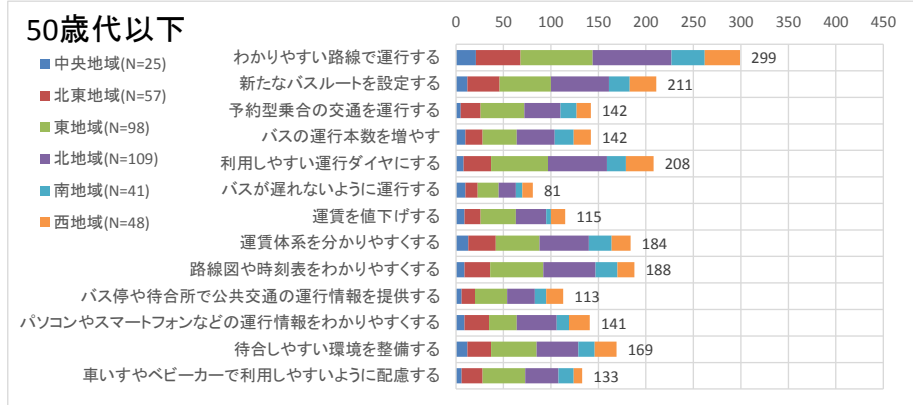
# 3 移動実態、ニーズ等からみた課題

## 3-3 市民のニーズ(→公共交通のわかりやすさ等の改善が必要)

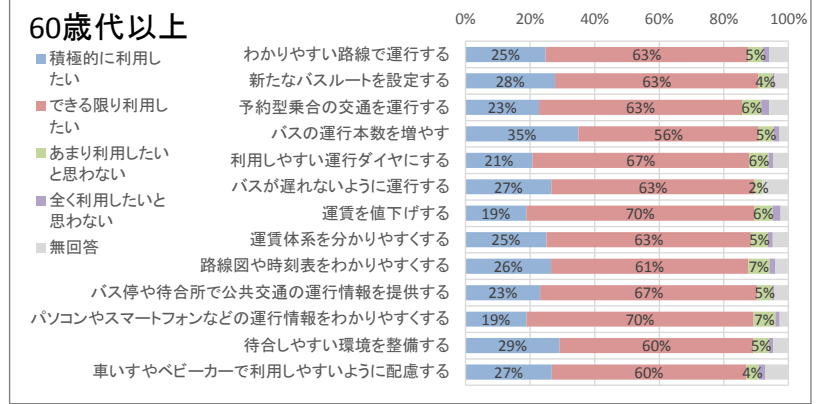
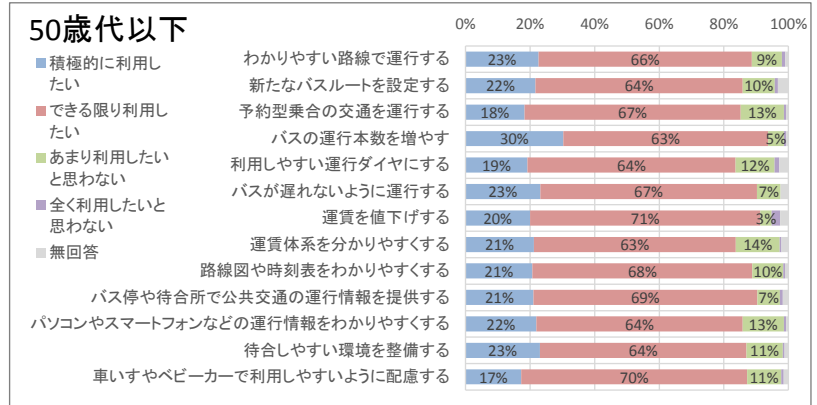
**現状:** 公共交通への要望として、50歳代以下、60歳代以上ともに「わかりやすい路線で運行する」が最も多くなっている。高齢者では「路線図や時刻表をわかりやすくする」「待合しやすい環境を整備する」が50歳代以下と比較して高くなっている。また、これらの改善が実施された場合の公共交通の利用意向は、「バスの運行本数を増やす」が最も高いが、高齢者では「待合しやすい環境を整備する」「バスが遅れないよう運行する」も高くなっている。

**課題:** 路線体系や路線図、時刻表のわかりやすさの確保、待合環境の整備、バスの遅延の解消が公共交通の利用増につながると考えられる。

■路線バスへの要望



■路線バスが改善された場合の利用意向



出典: 平成29年度旭川市公共交通に関するアンケート調査

# 3 移動実態、ニーズ等からみた課題

## 3-4 通学者のニーズ (→公共交通を利用した通学ニーズ[運行時間帯や定時性確保等]への対応が必要)

**現状:** 高校生の公共交通利用は多く、バスの利用について多様な意見(改善等の意見)をもっている。  
**課題:** 公共交通利用による通学しやすさの確保のためのバス路線の維持、確保、改善が必要である。

日時：平成26年11月12日13時30分～15時30分  
 出席者：旭川高専生徒（4年生）

### 1. 公共交通の利用状況

- ・寮生以外の方で、自転車で通学できる範囲に居住している方以外は全て公共交通を利用して通学している、
- ・バス（乗継なし）、バス（乗継あり）、鉄道とバスなどの利用がある。
- ・非積雪期に自転車で通学している方についても、冬季はバスでの通学を行っている。
- ・寮生は旭川市中心部や郊外のショッピングセンターに買い物に行く際、バスを利用。

### 2. バス交通の課題

#### (1) 路線網、ルート

- ・イオンや他の郊外部への移動の際に、一度、中心部まで行って乗り継ぐ必要があり非効率である。同じ方面の路線だと違いがわかりにくい。

#### (2) 運行本数

- ・朝の時間帯での郊外から中心部に向かうバスの本数が少ない。
- ・東鷹栖など、市街地から離れると本数が少ない。・冬場でバスが満員の場合がある。
- ・高校生の帰宅時間帯に本数が少ない。
- ・午後9～10時ごろの本数が少ない、終バスをもう1時間ほど遅くしてほしい。

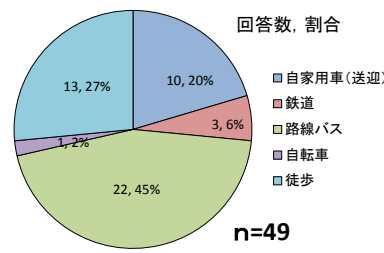
#### (3) 料金、支払方法

- ・会社間での乗継の場合、料金が倍になるため乗継料金などを設定してほしい。
- ・道北バスは定期的値段が高い。・高専前バス停で急に料金が上がる。
- ・ICカードをチャージできる場所が限られている。

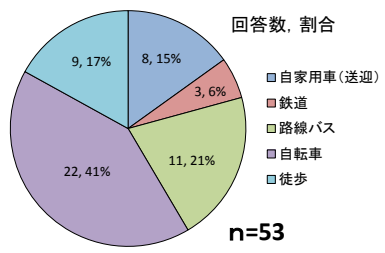
#### (4) 定時性

- ・冬季は時刻表通りに来ない。始発バスでも学校の始業時刻に遅れる場合がある。
- ・冬季の遅れなどを考慮したダイヤになっているのか。
- ・バスの乗り継ぎを行う場合、最初のバスが遅れると次のバスに乗り継げない場合がある。

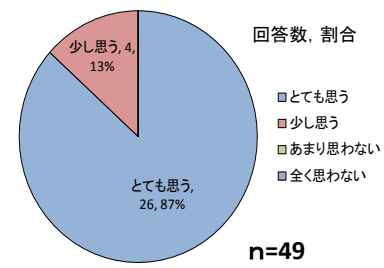
■積雪期の交通手段



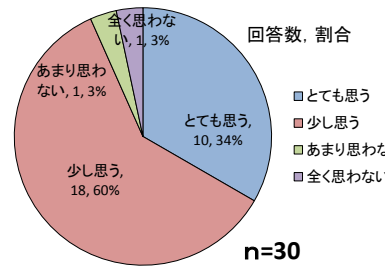
■非積雪期の交通手段



■旭川市のバスを現在よりも利用しやすくしていくことは必要なことだと思うか。



■バスが今後利用しやすくなった場合、「利用したい」、または「利用してもよい」と思うか。



旭川高専生徒アンケート調査



# 4 課題の整理・まとめ

## 1 地域の現状からみた課題

1-1 少子高齢化、人口の減少 (→公共交通利用のベース(全体数)の減少と高齢者増加への対応が必要)

1-2 観光需要の変化 (→公共交通利用のベースとなる観光需要の変化への対応が必要)

1-3 人口等の分布状況 (→人口等の集積の濃淡にあわせた公共交通網形成が必要)

1-4 市民の移動実態 (→広域移動および市内移動を確保する公共交通網の維持、改善が必要)

1-5 都市計画マスタープラン、立地適正化計画(現在策定中)  
(→拠点形成、コンパクトな市街地形成などの将来都市像への対応)

## 2 公共交通の現状からみた課題

2-1 公共交通利用者数の減少 (→利用減少に対する公共交通の利用促進、維持方策が必要)

2-2 市内の公共交通による人口カバー状況  
(→公共交通の不便な地域での移動手段の確保が必要)

2-3 運行本数、利用実態からみた幹線的な路線の存在  
(→路線の役割分担とネットワーク化が必要)

2-4 バス会社の環境の変化(運転者の不足、高齢化)  
(→運転手不足と高齢化への対応が必要)

## 3 移動実態ニーズ等からみた課題

3-1 市民の移動実態 (→生活利用のための路線の維持、確保が必要)

3-2 市民の利用意識 (→高齢化の中での移動手段の確保が必要)

3-3 市民のニーズ (→公共交通のわかりやすさ等の改善が必要)

3-4 通学者のニーズ (→公共交通を利用した通学ニーズへの対応が必要)